

## 令和5年度 学校運営評価調査及び学校関係者評価結果

### I 目的

富良野看護専門学校の理念・教育目的・目標に照らし、自らの教育活動を通して評価し、教育水準の維持・向上及び創意工夫のある教育の追求を図ることを目的とする。

### II 対象

#### 1 学校運営評価

- 1) 評価対象：教務課12名、事務課2名の計14名
- 2) 調査票配布数14部、回収14部、有効回答14部
- 3) 調査時期：令和6年1月9日（火）～31日（水）
- 4) 調査内容：調査票は別紙1のとおり。自記式無記名。
- 5) 結果分析：4段階の評価尺度を点数化し、「4 十分満たしている」を4点、「3 満たしている」を3点、「2 改善の余地がある」2点、「1 改善が必要である」1点とし、8領域カテゴリー25評価項目の平均点を算出した。

#### 2 学校関係者評価

学校関係者評価実施要綱に基づき、学校関係者評価委員より意見交換、課題等について協議した。別紙2のとおり。

### III 結果

学校運営評価調査の結果、全体の平均点は3.13であった。

平均点以上の領域別カテゴリーは、『II 教育課程・教育活動』3.23、『V 学生生活の支援』3.19、『VI 財政・施設設備の管理』3.32の3つであった。平均以下の領域別カテゴリーは、『I 学校運営』3.02、『III 学習成果』3.10、『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』2.86、『VII 教職員の能力の向上』3.04、『VIII 広報・地域活動』3.07の5つであった。

評価項目25項目の平均点は3.13であり、そのうち1.0～1.9点は0項目、2.0～2.9点は6項目、3.0～3.9点は19項目、4.0点は0項目であった。

25項目中、平均点の3.13以上だったのは16項目であり、平均点以下は9項目であった。

25項目のうち平均点が2点台だったのは6項目で、『I 学校運営』の「組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか」2.64、『II 教育課程・教育活動』の「教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか」2.57、『III 学習成果』の「国家試験の合格率が100%となるよう、教職員が一丸となり取り組んでいるか。」、『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』の「卒業生への支援をおこなっているか」2.21、『V 学生生活への支援』の「学校経営に学生の意見が反映されるように努めているか。」、『VIII 広報・地域活動』の「学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。」となった。

平均点が低くなった原因としては、令和5年5月に新型コロナウイルスが5類になり日常生活では脱コロナが進められていったが、看護教育では制限を緩和することが難しい場面も多く、実習施設との調整や代替の学内実習の企画運営など難易度の高い業務が継続したこと、新カリキュラムの導入のため試行錯誤をしながら業務を遂行する必要があったことなどにより、問題意識が高まり、改善に向けての意欲が向上したものと考えられる。また、調査期間が国家試験や卒業準備の時期であったことの影響を受けたと思われる。平成6年度からは1～3年生の全てが新カリキュラムとなる。新しい教育を作り上げていく過渡期であることから、今回の結果を踏まえて、教育活動の改善に取り組んでいく必要がある。

### IV 課題改善に向けて

調査結果から、次の課題の改善に向けて取り組む。

- 1 授業・実習の評価を行い、教職員の情報共有と連携強化のもとで、より良い看護教育にむけて教育活動を実践する。
- 2 入学応募者の確保にむけて課題を明確化し、その方策を具体化し実践する。
- 3 単位取得にむけて、学生への切れ目のない継続的な支援を行う。
- 4 国家試験対策を推進する。
- 5 学生の意見・要望を聞く仕組みづくりを行い、学生とともに学校運営を実践する。
- 6 臨地実習の臨場感を体験できる教材・教具の整備、授業展開に取り組む。
- 7 個々の教職員は自己の教育力向上にむけて、教育環境の改善・整備に取り組む。
- 8 地域社会の一員としてボランティア活動等を実践する。

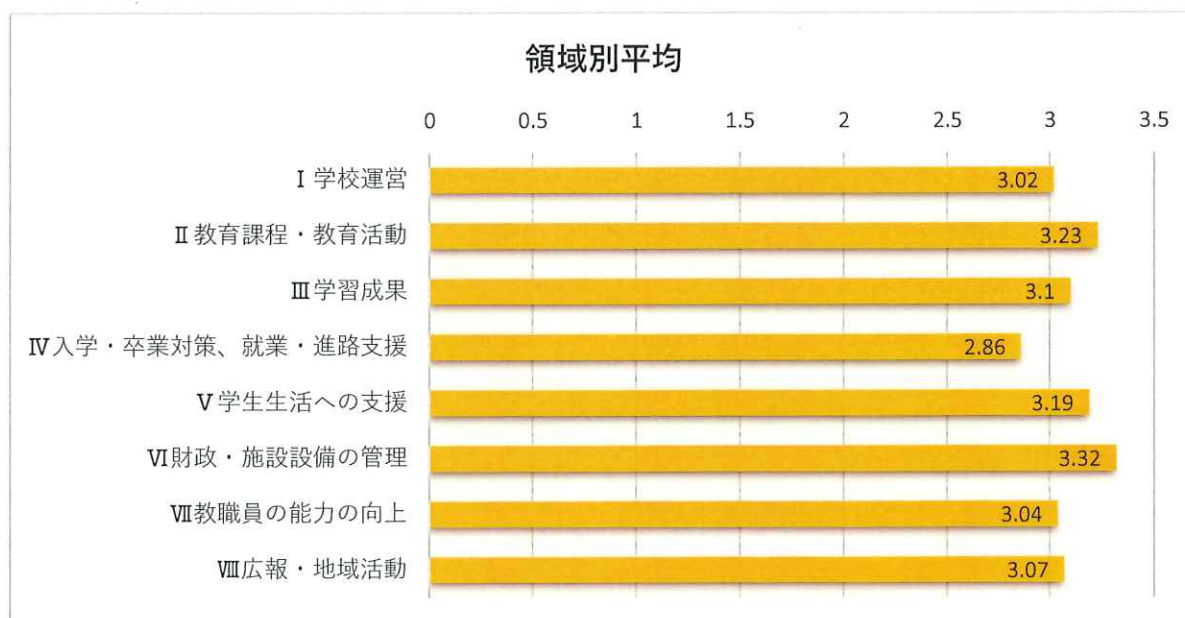
## 集計結果

カテゴリー	評価項目	平均点			
Ⅰ 学 校 運 営	1	学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定しているか	3.14	Ⅰ	3.02
	2	コンプライアンスを重視した学校経営がなされているか	3.29		
	3	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか	2.64		
Ⅱ 教 育 活 動 課 程 ・	4	教育目標を明示するとともに、卒業時の到達目標を分析しているか	3.43	Ⅱ	3.23
	5	教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	2.57		
	6	体系的なカリキュラム運営が行われているか	3.36		
	7	評価について公平性・妥当性が保たれているか	3.29		
	8	実習時の安全体制が整っているか	3.50		
Ⅲ 学 習 成 果	9	学生の単位取得に向けた支援を実施しているか	3.36	Ⅲ	3.10
	10	国家試験の合格率100%となるよう、教職員が一丸となり取り組んでいるか	2.71		
	11	退学率の低減を図っているか	3.21		
Ⅳ 入 学 ・ 就 業 ・ 卒 業 支 援 ・ 進 路 対 策	12	入学応募者の確保に努めているか	3.36	Ⅳ	2.86
	13	就業・進路支援に取り組んでいるか	3.00		
	14	卒業生への支援を行っているか	2.21		
Ⅴ へ の 支 援 生 活	15	健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか	3.64	Ⅴ	3.19
	16	学生の主体的な活動を支えているか	3.14		
	17	学校経営に学生の意見を反映されるように努めているか	2.79		
Ⅵ 財 政 、 備 の 管 理 、 施 設 設 計	18	予算計画、年間計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか	3.43	Ⅵ	3.32
	19	災害など非常時の危機管理体制は整っているか	3.14		
	20	施設設備及び教材が整い、安心・安全が確保されているか	3.29		
	21	学生の主体的な学習の場が確保されているか	3.43		
Ⅶ の 能 力 上 向 教 職 員	22	教職員は看護教育力向上に努めているか	3.00	Ⅶ	3.04
	23	教職員の能力向上にたいする取組を支援する環境があるか	3.07		
Ⅷ 地 域 活 動 ・ 広 報	24	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか	2.93	Ⅷ	3.07
	25	地域社会の一員として、貢献しているか	3.21		

## 令和5年度 学校評価集計結果

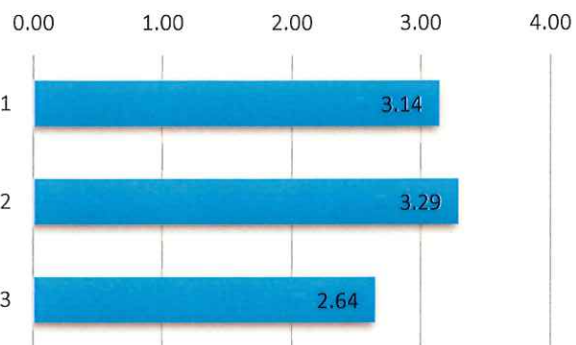
### 領域別平均

評価項目	令和5年度
I 学校経営	3.02
II 教育課程・教育活動	3.23
III 学習成果	3.1
IV 入学・卒業対策、就業・進路支援	2.86
V 学生生活への支援	3.19
VI 財政・施設設備管理	3.32
VII 教職員の能力向上	3.04
VIII 広報・地域活動	3.07

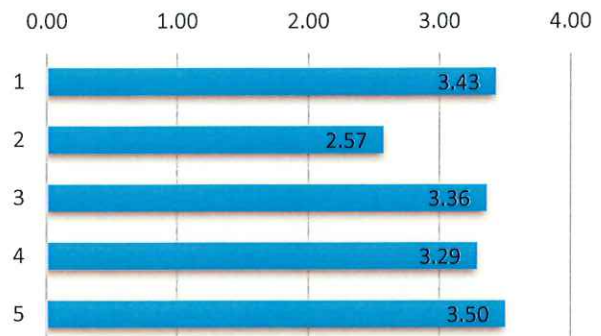


## 領域別項目別集計結果

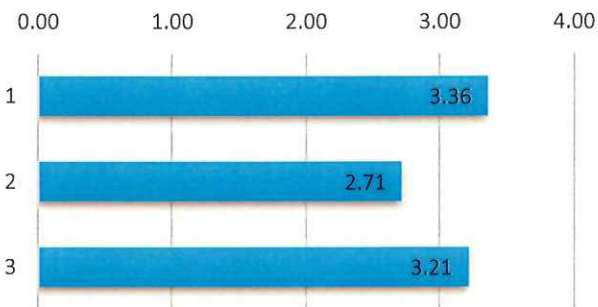
### I 学校運営



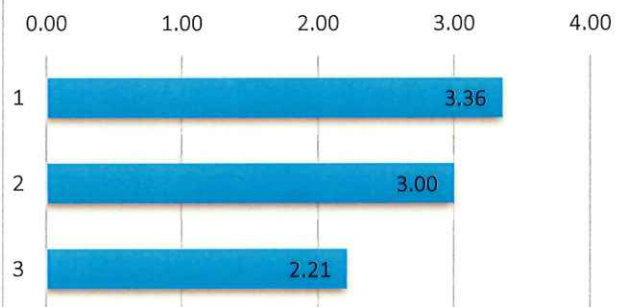
### II 教育課程・教育活動



### III 学習成果



### IV 入学・卒業対策・就業・進路支援



### V 学生生活への支援



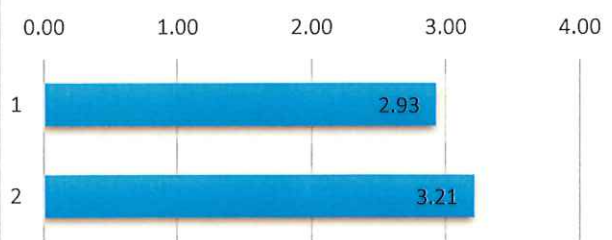
### VI 財政・施設設備の管理



### VII 教職員の能力向上

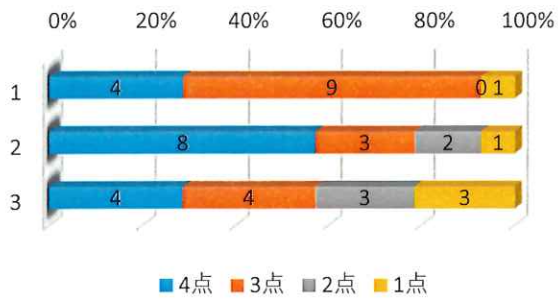


### VIII 広報・地域活動

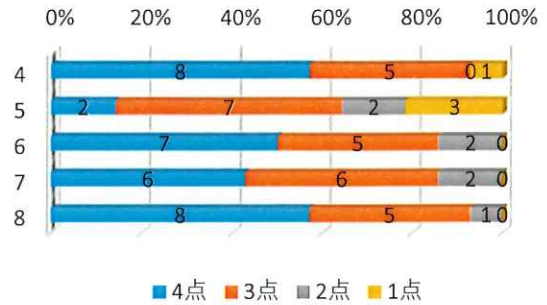


評価集計結果

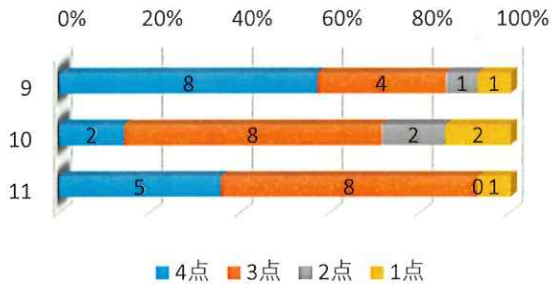
Ⅰ 学校運営



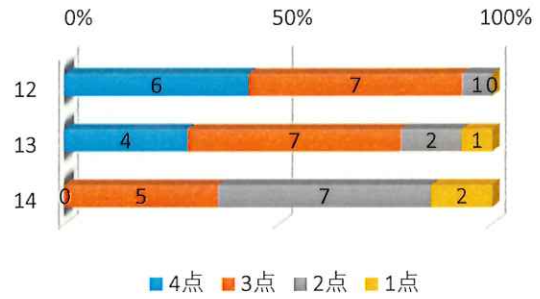
Ⅱ 教育課程・教育活動



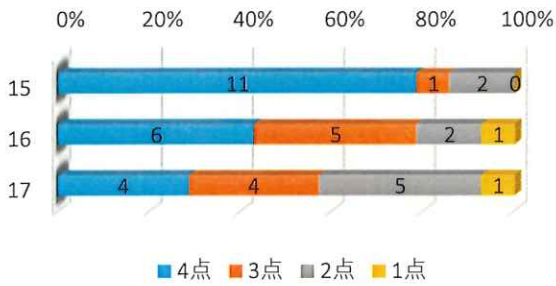
Ⅲ 学習成果



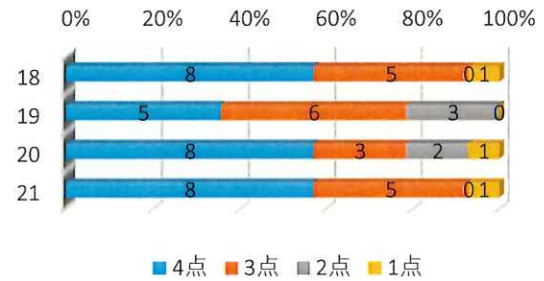
Ⅳ 入学・卒業対策、就業・進路支援



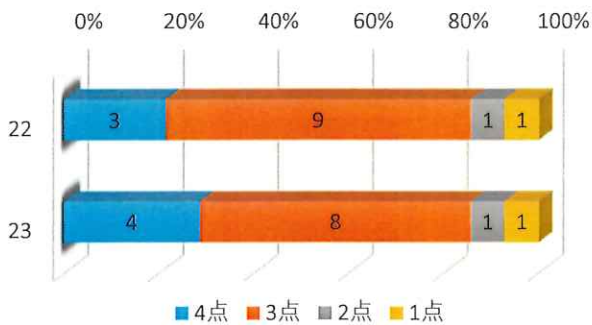
Ⅴ 学生生活への対応



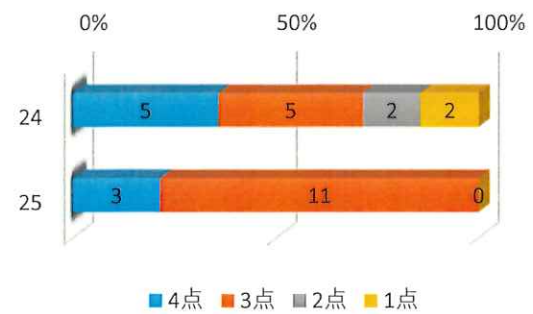
Ⅵ 財政・施設設備管理



Ⅶ 教職員の能力の向上



Ⅷ 広報・地域活動



調査結果	学校関係者評価	分析
<p>1 領域別カテゴリー</p> <p>全体の平均点は3.13 (3.34)であった。</p> <p>8 領域別カテゴリーのうち平均点以上は、『Ⅱ 教育課程・教育活動』3.23 (3.60)、『Ⅴ 学生生活の支援』3.19 (3.36)、『Ⅵ 財政・施設設備の管理』3.32 (3.54)であった。平均以下の領域は『Ⅰ 学校運営』3.02 (3.53)、『Ⅲ 学習成果』3.10 (3.33)、『Ⅳ 入学・卒業対策、就業・進路支援』2.86 (3.22)、『Ⅶ 教職員の能力の向上』3.04 (3.15)、『Ⅶ 広報・地域活動』3.07 (3.00)であった。</p> <p>上位の領域順は、『Ⅵ 財政・施設設備の管理』、『Ⅱ 教育課程・教育活動』、『Ⅴ 学生生活の支援』であり、下位の領域は『Ⅳ 入学・卒業対策、就業・進路支援』、『Ⅰ 学校運営』、『Ⅶ 教職員の能力の向上』であった。</p>		<p>評価尺度は「4 十分に満たしている」、「3 満たしている」、「2 改善の余地がある」、「1 改善が必要である」の4段階とし、点数化した。</p> <p>全体の平均点は3.13 (3.34)であり、昨年度より0.21ポイント減少した。</p> <p>8 領域別カテゴリーのうち、平均点以上の領域別カテゴリーは、『Ⅱ 教育課程・教育活動』3.23、『Ⅴ 学生生活の支援』3.19、『Ⅵ 財政・施設設備の管理』3.32の3つであった。平均以下の領域カテゴリーは、『Ⅰ 学校運営』3.02、『Ⅲ 学習成果』3.10、『Ⅳ 入学・卒業対策、就業・進路支援』2.86、『Ⅶ 教職員の能力の向上』3.04、『Ⅶ 広報・地域活動』3.07の5つであった。</p> <p>7つの領域別カテゴリーで0.11ポイントから0.51ポイント減少した。増加した領域別カテゴリーは「広報・地域活動」(0.07ポイント増)であった。</p>
<p>2 評価項目</p> <p>評価項目25項目の平均点は、25項目中1.0～1.9点は0項目、2.0～2.9点は6項目、3.0～3.9点は19項目、4.0点は0項目であった。</p> <p>平均点以上だった評価項目は、25項目中16項目(64.0%)であり、平均点以下は9項目(36.0%)であった。</p> <p>平均点上位3位までの領域と評価項目は、『Ⅴ 学生生活の支援』の「健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っている」3.64 (3.75)、『Ⅱ 教育課程・教育活動』の「実習時の安全体制が整っているか」3.50、『Ⅱ 教育課程・教育活動』の「教育目標を明示すると</p>		<p>評価項目25項目のうち、平均点の3.13以上だったのは16項目(64.0%)であり、平均点以下は9項目(36.0%)であった。</p> <p>25評価項目の中では、「組織全体でのチーム力の発揮」、「教育内容」、「国家試験」、「卒業生支援」、「学生の意見の反映」、「学校のPR」に関する点数が低かった。平均点が低くなった原因としては、令和5年5月に新型コロナウイルスが5類になり日常生活では脱コロナが進められていったが、看護教育では制限を緩和</p>



調査結果	学校関係者評価	分析
<p>ともに、卒業時到達目標分析しているか」3.43 (3.70)、『VI 財政・施設設備の管理』の「予算計画、年間計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。」3.43、『VI 財政・施設設備の管理』「学生の主体的な学習の場を確保しているか」3.43であった。(3位が同点で3項目だったため全5項目となった)平均点下位3位までの領域と評価項目は、『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』の「卒業生への支援をおこなっているか」2.21、『II 教育課程・教育活動』の「教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか」2.57、『I 学校運営』の「組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか」2.64であった。</p>		<p>することが難しい場面も多く、実習施設との調整や代替の学内実習の企画運営など難易度の高い業務が継続したこと、新カリキュラムの導入のため試行錯誤をしながら業務を遂行する必要があったことなどにより、問題意識が高まり、改善に向けての意欲が向上したものと考えられる。また、調査期間が国家試験や卒業準備の時期であったことの影響を受けたと思われる。平成6年度からは1～3年生の全てが新カリキュラムとなる。新しい教育を作り上げていく過渡期であることから、今回の結果を踏まえて、教育活動の改善に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>3 領域カテゴリと評価項目 『I 学校運営』 3項目 平均点 3.02 (3.53) 3項目中2項目は平均点3点以上と高い評価であった。 各評価項目は、「学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定している」3.14 (3.67)、「コンプライアンスを重視した学校運営がなされている」3.29 (3.75)であった。「組織全体でチーム力を発揮した取組を行っている」は令和4年度より0.53ポイント低く2.64 (3.17)であった。</p>	<p>○「組織全体でチーム力を発揮した取組をおこなっているか」について、改善が必要または余地がある点を回答者への聞き取り等を通じて、具体化していくことが必要かと思われます。 ○コンプライアンスについては、高評価であることから、日々配慮されていることと思います。</p>	<p>3項目とも、昨年度の点数より低くなっている。特に「組織全体でチーム力を発揮した取組をおこなっているか」については、「1改善が必要である」とする者の割合が21.4%、「2改善の余地がある」とする者の割合が21.4%であり、全教職員のうち約43%が改善する必要があると考えている。組織全体でチーム力を発揮できるような体制づくりに取り組む必要がある。</p>
<p>『II 教育課程・教育活動』 5項目 平均点 3.23 (3.60) 5項目中4項目が平均点3点台、1項目が2点台であった。 各評価項目は、「教育目標を明示</p>	<p>○カリキュラム改正は教職員の皆さまにとってご苦労されていると思います。次年度は3学年ともに新カリキュラムとなるので、評価</p>	<p>5項目中4項目が昨年度の点数より低くなっている。特に「教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容にな</p>

調査結果	学校関係者評価	分 析
<p>するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか」3.43 (3.70)、「教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか」2.57 (3.60)、「体系的なカリキュラム運営が行われているか」3.36 (3.60)、「評価について公平性・妥当性が保たれているか」3.29 (3.60)、「実習時の安全体制が整っているか」3.50 (3.50)であった。</p>	<p>調整をしながら、より良い看護教育を期待します。</p> <p>○3学年すべて新カリキュラムに移行する次年度の評価分析が必要になると思います。</p> <p>○新旧カリキュラムでの混在する中、指導に苦慮される中でも大変尽力されていることと思います。</p>	<p>っているか」では 1.03 ポイント減少している。これは、1年生・2年生が新カリキュラム、3年生が旧カリキュラムという過渡期中で教員が苦慮している状況が点数として示されたものと思われる。</p> <p>今後も現状のカリキュラム評価、調整しながらよりよい看護教育にむけて教育活動を継続していくことが必要である。</p>
<p>『Ⅲ 学習成果』 3項目 平均点 3.10 (3.33) 3項目中2項目は平均点3点台、1項目は2点台であった。</p> <p>各評価項目は、「学生の単位取得に向けた支援を実施しているか」3.36 (3.40)、「国家試験の合格率が100%になるよう教職員が一丸となって取り組んでいるか」2.71 (3.30)、「退学率の低減を図っているか」3.21 (3.30)であった。</p> <p>各評価項目は、「学生の単位取得に向けた支援を実施しているか」3.36 (3.40)、「国家試験の合格率が100%になるよう、教職員が一丸となって取り組んでいるか」2.71 (3.30)、「退学率の低減を図っているか」3.21 (3.30)であった。</p>	<p>○個々の学生への丁寧な関りがポイントに表れていると思います。</p> <p>学生のメンタルヘルスは学習成果に大きな影響を与えるため、引き続き丁寧な対応をお願いします。</p> <p>○課題を抱える学生さんに個別に対応されていることは、実習を通じて個別に支援している部分からも感じているところです。</p>	<p>3項目とも昨年度よりも低くなっているが、「単位取得に向けた支援」や「退学率の低減」に関しては、昨年度とほぼ同じ点数である。学業不振、体調不良、進路変更などの課題は毎年複数件あるが、教職員は学生個々の状況に応じて丁寧に対応し、後悔のない意志決定にむけた支援をしている。今後も課題を抱える学生は増加傾向にあると思われるため、適切な対応を行っていく必要がある。</p>
<p>『Ⅳ 入学・卒業対策、就業・進路支援』 3項目 平均点 2.86 (3.22)</p> <p>昨年度と変わらず、領域カテゴリーの中でも最下位の平均点であり、3項目中2項目は平均点3点台、1項目は2点台であった。</p> <p>各評価項目は、「入学応募者確保に努めているか」3.36 (3.58)、「就職・</p>	<p>○18歳人口の減少、都会志向を考えると、今後も変わることは少ないと思います。社会人から看護師を目指す方も多くなってきているので、そちらの応募が増える取り組みもあればと思います。</p> <p>○卒業支援は他の項目と比較してどうしても優先度が低くなるため</p>	<p>「入学応募者の確保に努めているか」については、平均点は高かったが、実際には18歳人口の減少や看護系大学志望者増加、都会志向等の要因が複合し、受験生の減少、定数割れが顕著となっている。今年度、体験型のオープンキャンパスの開催や、入学試験日程の一部見直し</p>



調査結果	学校関係者評価	分析
<p>進路指導に取り組んでいるか」3.00 (3.17)、「卒業生への支援をおこなっているか」2.21 (2.92)であった。</p>	<p>低いポイントも致し方ないと思います。一方で就労後の定着のため、一定の外部支援が必要になっている方も多く見受けられる傾向を考えると無視できない点だと思います。</p> <p>○卒業後の就職は遠方になっても、都度、相談には対応されていることで、「富良野に帰ろう」、「富良野があった」と選択肢に挙がると思っています。継続的に支援をしていただきたいです。</p>	<p>(2日間から1日間に変更)を図るなど、前年度より1.6倍の受験者増となったが、現状、入学者の確保まで繋がっていない状況である。今後は更なる応募者の増に向け、保護者向けのオープンキャンパスの開催、学校専用のホームページを開設し、全国から応募いただけるよう周知を図っていく必要がある。</p> <p>「就職・進路指導に取り組んでいるか」は、就職・進路指導は担任が中心となり指導し、面接の練習や小論文は他の教員と協力ながら実施している。富良野市内または管内への就職率を上げたいが、地元志向、都会志向の傾向が続いている。</p> <p>「卒業生への支援を行っているか」は、「1 改善が必要である」とする者が2名(14.3%)、「2 改善の余地がある」とする者が7名(50.0%)であった。現在、卒業生からの相談がある場合は随時、対応しているが、卒業生への継続的な支援など、新たなアプローチ方法を考えていく必要がある。</p>
<p>『V 学生生活の支援』3項目 平均点 3.19 (3.36) 3項目中2項目は平均点3点台、1項目は2点台であった。 各評価項目は、「健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか」3.64 (3.75)、「学生の主体的な活動を支援しているか」3.14 (3.17)、「学校運営に学生の意見が反映されるよう努めているか」3.79 (3.17)であった。</p>	<p>○学生の意見を目安箱の設置が効果的ではないということで、あまり受け身だと意見を出すことをしないのだと思います。学生としても、小さなことでも自分達の意見が反映されると考えていききっかけになるのではと思います。</p> <p>○学業に専念できる環境を作ることは、学習成果の発揮にとっても重要でありますので、引き続き丁寧な対応をお願いします。</p> <p>○「学生の意見反映」については、要望自体が少ないのか、要望を聞</p>	<p>学生の健康管理、経済面、精神面への支援はクラス担任を中心に健康管理、カウンセリングによる指導が継続的に実施されている。経済面ではコロナ禍での生活困窮者への支援にも適宜対応できた。</p> <p>学生の主体的な活動を指導指針の基本としているが、コロナ禍で活動は自粛や制限があり、主体的な活動には至っていない。</p> <p>学校運営への学生の意見の反映については、目安箱の設置をしているが、1年間の投書数は0件で効果</p>

調査結果	学校関係者評価	分 析
	<p>き取る機能面に課題があるのかを明確にする必要があるのかと考えます。</p> <p>○経済面での支援は生活の安定にも繋がるので、安心して学生生活を送ることができるよう充実しているのだと思います。</p>	<p>的な方法とはなっていない。学生との話し合いの場やアンケートなど、意見や要望を聞くための方策を検討することが必要である。</p>
<p>『VI 財政・施設設備管理』4項目 平均点 3.32 (3.54)</p> <p>領域カテゴリーの中でも最上位の平均点であり、4項目すべてが3点台であった。</p> <p>各評価項目は「予算計画、年間計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか」3.43 (3.58)、「災害など非常時の危機管理体制が整っているか」3.14 (3.42)、「施設設備及び教材が整い、安心・安全が確保されているか」3.29 (3.50)、「学生の主体的な学習の場を確保しているか」3.43 (3.67)であった。</p>	<p>○Wi-Fi、電子カルテなど年々機能充実が遅滞なく図られている点は素晴らしいと思います。DX化など就労現場の状況も日々変化していきますので、今後も社会状況に合わせた機能整備をお願いいたします。</p> <p>○Wi-Fiの充実必須要件と思われ、学習環境が充実していると思います。</p>	<p>オンライン授業のために学内と学生寮にwi-fiのインターネット環境を整備し、学生が自宅でも講義を受講できる環境が整えられている。臨地実習から学内実習への変更に対応するために、より現実的で臨場感のある教材・教具を計画的に整備している。今年度は教育用電子カルテを活用し、領域別に学内での演習やシミュレーション学習に効果が得られている。</p> <p>今後もインターネット環境や臨地実習の臨場感を体験できる教材・教具の整備・充実を図る必要がある。</p>
<p>『VII 教職員の能力の向上』 2項目 平均点 3.04 (3.15)</p> <p>2項目ともに平均点3点台であった。</p> <p>各評価項目は「教職員は自己教育力向上に努めているか」3.00 (3.20)、「教職員の自己教育力向上に対する取組を支援する環境にある」3.07 (3.20)であった。</p>	<p>○教職員の皆さんが様々な状況変化への即応を求められながら、かつ自己研鑽もしていくことは容易ではないと思われ、教育力向上に対する取り組みを支援する環境整備を引き続き注力願います。</p>	<p>2項目ともに「3 満たしている」、「4 十分に満たしている」とする割合が多かった。</p> <p>今後も、教職員が自己の能力向上にむけて、客観的に自己評価し自己開発できる環境の整備が必要である。</p>
<p>『VIII 広報・地域活動』2項目 平均点 3.07 (3.00)</p> <p>8カテゴリー領域の中で、唯一、昨年度の平均点より上昇している</p>	<p>○今年度久しぶりにイベント参加・開催できるようになったことはうれしい変化です。「地域に根付</p>	<p>評価項目「学校をPRするために積極的な広報活動をしている」は、「1 改善が必要である」とする者が</p>

調査結果	学校関係者評価	分析
<p>項目である。</p> <p>各評価項目は「学校をPRするために積極的な広報活動をしている」2.93 (3.33)、「地域社会の一員として、貢献しているか」3.21 (2.67)であった。</p>	<p>く学校」として、コロナ禍以前の開かれた学校を取り戻せることを期待しています。</p>	<p>2名 (14.3%)、「2改善の余地がある」とする者が2名 (14.3%)いた。令和6年度はホームページをリニューアルする予定であるが、広報誌「看心ふらの」以外にも効果的な広報活動を考えていく必要がある。</p> <p>評価項目「地域社会の一員として、貢献しているか」は、全員が3点以上であった。新型コロナの制限が緩和され、へそ祭りなど市のイベントに学生と教職員が参加できたことや中学生の職業体験の受け入れを行ったこと、新型コロナワクチン接種業務への参加などが高評価に繋がったと考えられる。</p> <p>次年度も、感染対策をとりながら地域社会の一員として徐々に活動を拡大していく。</p>
	<p>その他 (自由意見)</p> <p>○コロナが5類となりましたが、医療の現場では、まだ影響が大きく今後も以前と同じ活動・運営が困難なこともあると思います。</p> <p>○次年度も教職員の皆さまの取り組みを応援しています。一年間、お疲れさまでした。</p> <p>○コロナショックがひと段落はしたものの、新たな取り組みや体制整備を引き続き求められることも多く、大変な一年間だったかと想像できます。その中で学生に対する丁寧な支援、新たなカリキュラムへの対応、入学応募者確保など重要度の高い項目に適切に対応されてきたことは高く評価できると思います。一方で課題項目がより顕著になっている状況もありますので、取り組むべき課題の優先度を検証した上で、すぐに取り組むべき課題と、後に取り組むべき課題を振り分けることも必要になっているのかと思います。</p> <p>○今後も若者人口の減少とそれに伴う人材不足がより進み、課題も増えていく一方ですが、組織内連携を強めて適切に対応できる学校運営を期待しています。</p> <p>○臨地実習を通して、振り返る機会を逆にいただいていると感じています。今年度は感染症対策等で、ご心配やご迷惑をおかけしました。そのような状況下でも無事に実習できたことに安堵しております。今後ともよろしく願い致します。</p>	